



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 127 号(2016 年 10 月 12 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

このところ急に秋らしくなってきました。

10 月 22 日（土）に今年もホームカミングデイを開催します。ぜひお越しください。

○加州でのひとりごと（第 5 回）

やせ我慢の美学

法学部准教授 濱田陽子

時が経つのは早いもので、このたび 2 年間の在外研修を終えて、先日無事に帰国しました。なにかと慌ただしい中、寛大な心で在外研修をお認めくださった学部をはじめ関係の先生方には、改めて心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

居住していた北カリフォルニアのベイエリアでも、健康、経済、趣味など様々な理由で、自転車通勤・通学する人を多く見かけた。岡山でも多くの自転車を見かけるが、一つだけ決定的な違いがある。彼の地では、自転車は決して歩道を走らないのだ。サンフランシスコのように狭く混雑している道でも、自転車は必ず車道を走っていた。もちろん友人と話しながら並走することもなく、四輪車と同様に一列縦走である。それは、交通マナーの遵守というよりも、「我々は自転『車』に乗っているのだ」という自負やプライドに起因しているように感じた。

車の運転中に前方に自転車が走っていて、対向車も多くて上手に追い抜くことができず、イラッとしたことは何度もある。でも、彼の地のドライバーは、おそらく同じようにイラッしているだろうにもかかわらず、追い抜くタイミングを辛抱強く待ち、自転車に乗っている人と呼吸を合わせ、互いの安全を確保しながら上手に追い抜いていた。

他方で、歩行者も必ず歩道を歩き、自転車専用道路があってもそこを歩く姿は見かけなかった。歩行者は、自動車用の車道と同じように、自転車用の道路＝車道にも不必要に入らないようにしていた。これが、車両大国アメリカが作り上げてきた道路の使い方であり、車の歴史の短い我々も学ぶべき点があるように思う。彼らにとって公共とは他人とシェアするものであり、自分の満足を求めるものではないのだろう。

あるいはその姿は、知性と理性に支えられたやせ我慢なのかもしれない。でも美しいやせ我慢だと思う。そうすることで、自分を含めたすべての人の自由を認めようとしているのだろう。もちろん、こんなやせ我慢などしたくない、する必要はないという考え方もある。このような動きは今の大統領選挙にも見て取ることができる。そのような動きも排除せず受け入れた上で、さて次にどうするか。大学街パークレーに居住する人々は新たな挑戦に面しているように見えた。

○法学部からのお知らせ

☆岡山大学法学部第 9 回ホームカミングデイ

今年もホームカミングデイを開催します。卒業生で弁護士、岡山大学法文経学部同窓会会長の陶浪保夫氏に講演いただきます。みなさまのお越しをお待ちしています。

日時：2016 年 10 月 22 日（土）

1. 講演会

時間： 14：30-16：00

場所： 岡山大学 文法経学部講義棟 10 番教室

講師： 陶浪保夫氏（弁護士・岡山大学法文経学部同窓会会長）

演題： 「学生歌（昭和 28 年度）の誕生に関わって」

2. 懇親会

時間： 16：30-18：30

場所： 岡山大学ピーチユニオン 3 階

会費： 2000 円（在学生は無料）